

仮設土留め工の設計(JR)

土木・建築設計計算 SUCCES

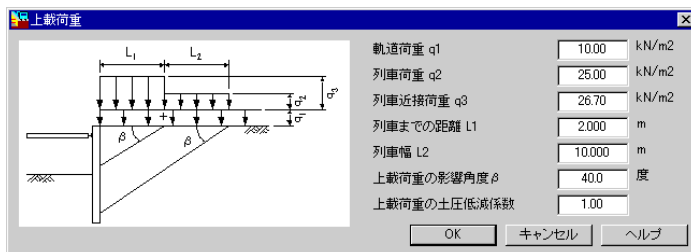
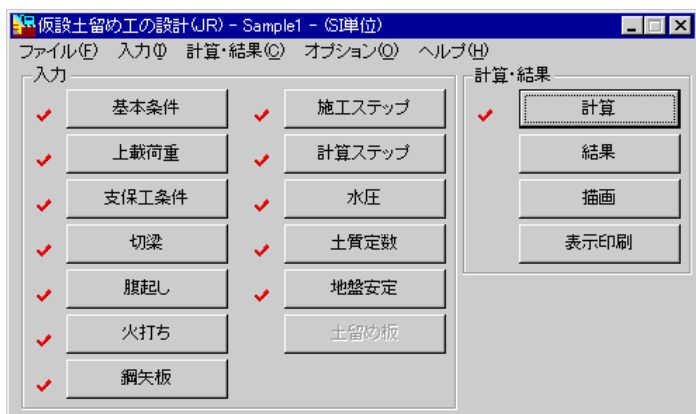
「鉄道構造物等設計標準・同解説 開削トンネル」に基づいた、開削工法を行う場合に用いられる仮設構造物の設計計算を行います。構造形式は、切梁式と自立式を対象とし、鋼矢板・SMWを用いた締切り、および親杭を用いた土留めの設計計算を行います。土留壁の根入れ長計算、地盤安定計算・断面計算、支保工の断面計算を行い、これらの設計計算書を出力します。

製品特長

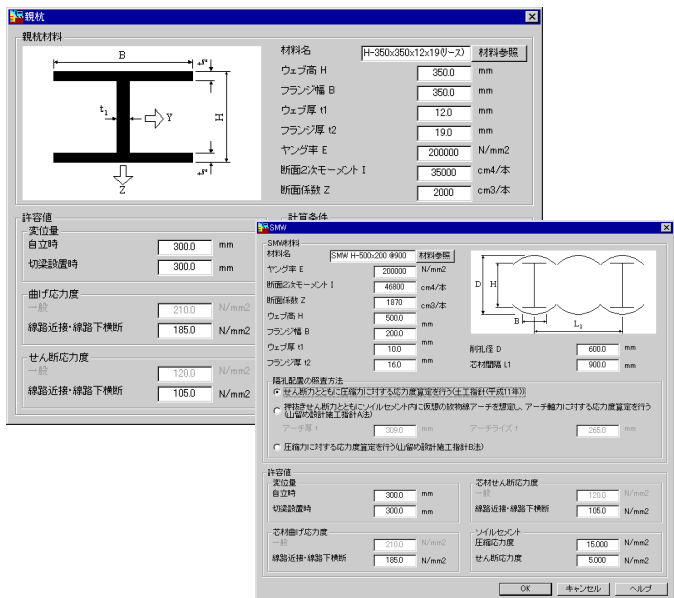
機能概要

■根入れ長算定～土留め壁断面計算～支保工断面計算まで一括計算します。

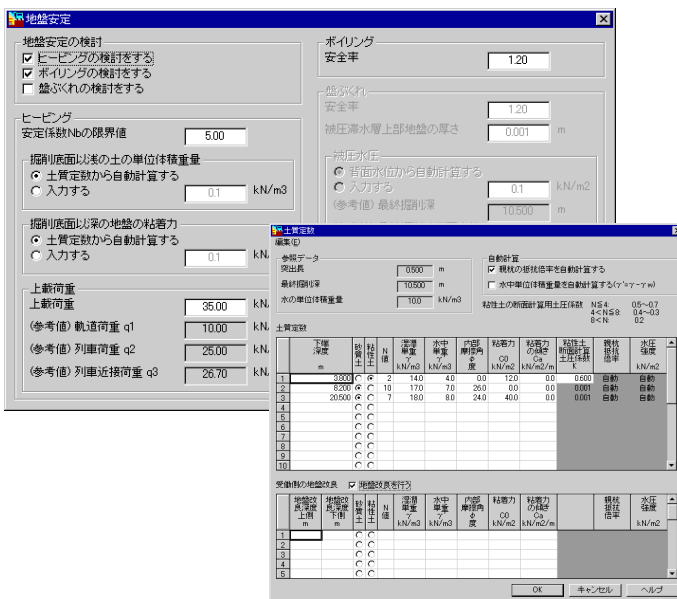
■軌道荷重、列車荷重、土留め工と軌道中心が近接した上載荷重を考慮できます。



■鋼矢板・親杭・ソイルセメント壁の断面計算が可能です。



■地盤改良・被圧地下水の入力が可能です。



- ボイリング・ヒール部・盤ぶくれの検討が可能です。
- 掘削時・盛替撤去時の計算に対応しています。
- 鋼材データを登録ファイルから引用できます。（鋼矢板、H鋼材、ソイルセメント壁）。

システムの適応範囲

▶ 適応基準

- (財) 鉄道総合技術研究所 『掘削土留工設計指針』 昭和62年9月
- (財) 鉄道総合技術研究所 『鉄道構造物等設計標準・同解説 開削トンネル』 平成13年3月

▶ 適応範囲

切梁段数	30段
土層数	20層
施工ステップ	40ステップ
設計法	中小規模土留めを対象とした慣用法

動作環境

※必要メモリ等はシステム環境によって異なる場合がありますのでご注意ください。

OS	Microsoft Windows 11,10 ※Windows動作保証の最新情報は こちら	ハードディスク	OSのシステム要件を満たし、問題なく動作する環境
メモリ	OSのシステム要件を満たし、問題なく動作する環境	ディスプレイ	1280×1024以上が表示可能なもの